

神幸祭

神崎 飯土井神社
金田 稻荷神社

2週連続で各地区を祭り一色に染めた金田、神崎の秋祭り。収穫を控えた稲穂がそよぐ風景に、金色の山笠10基が姿を現しました。鳥居前では鬼が暴れ、巫女や獅子、稚児が華やかな舞を披露。人々の身も心も熱くさせた一大イベントを、写真とともに振り返ります。

掛け声合わせ心一つに

10月8日から2日間、神崎地区で「飯土井神社神幸祭」が行われました。4地区で山笠が建てられ、施設などを訪問。堂々とした練り回しを披露して人々を魅了しました。

神崎地区での山笠奉納は昭和35年に「神崎二」が始め、その後4地区に定着しましたが、年々昇き手が減ってきている現状です。山笠の重さは数トン。上り坂などでは人数をカバーするように地区を越えて助け合う様子が見られ、終始和やかな雰囲気です。2年に一度の祭りを謳歌しました。

伝統の舞で際立つ祭り

10月15日から2日間行われた金田地区の「稲荷神社神幸祭」。神社の例大祭にあわせ、無病息災、五穀豊穡を願う古くから行われてきた祭礼です。

天候に恵まれた初日午後、各地区で村回りを終えた6基の山笠とそろいの法被に身を包んだ昇き手たちが鳥居前に集結。勇壮な山笠が見守る中、境内では2人の巫女による舞に続き、金田一区の氏子によって継承されている町指定民族文化財の「獅子楽」が、稚児の舞とともに奉納されました。その後、ご神体を乗せた神輿や神社の宮司を筆頭に、総勢200人以上が長い列をなして御旅所まで「お下り」。翌日は同様に「お上り」が執り行われました。

約1千2百年もの歴史ある稲荷神社。その祭礼は本来の姿を失うことなく、大切に伝統が守り受け継がれています。



町部



上金田



一区



神崎二



神崎一



平原



六区



宝見



神崎四



神崎三

